



門前の様子



タピオカミルクキャラメル



(左) きぐるみを排除する職員



(右) 広場集会の様子

10・3 処分撤回集会報告

処分撤回！「学生の本分」をお前が決めるな！10・3 総人広場集会が盛大に打ち抜かれました！

9月10日に無期停学処分を下された学生の1人が発言。今回の処分が学友や立て看板を弾圧から守ろうとしたことを理由とする異次元の処分であること、京大役員会・理事会がここ数年の間に押し進めている規制・処分やカリキュラム強化は文科省の社畜生産政策であること、学生1人1人が行動を起こせばそれを打ち破れることを訴えました。

弾圧職員は、京大総務部の提案に基づき山極総長が一方的に定めた（9月30日、ビラまき弾圧裁判にて中村総務部長が証言）出禁者だけでなく、着ぐるみやマスクを身につけた学生も構内から排除しようとしていました。そのうちの一人はこれに負けず、他の学生がスクラムを組んで守る中で発言を貫徹しました。

一方、門前ではタピオカミルクキャラメルが大人気。長蛇の列をなす人々がビラを受け取り、攻防に注目しました。作部前委員長が「構内では飲食物すら職員に強奪されてしまう」と弾劾しました。

最後に安田委員長が、これまでのすべての政治的処分の撤回

と恣意的な処分を予定した「懲戒規程」の廃止を求める要求書を読み上げ、職員に受け取りを呼びかけました。職員は例によって受け取りを拒否、学生の弾劾の音が鳴りやまぬまま集会は盛況下に閉幕しました。

現在、入試期間中のキャンパスに「オルガ先生像」を展示した学生1名が新しく処分を検討されています。これは複数のメディアに取り上げられ、当時の受験生である1回生を含む多くの学生・市民が批判の声を上げています。

京大で起きている数々の問題を突破するには全学的な団結が必要です。まずは今週木曜の運営会議に集まり、策を練りましょう！

◆ 今後の予定

10月10日 18:30 学内某所 運営会議

10月11日 16:15 正門前 安田委員長処分（2017年オープンキャンパス弾圧）撤回署名提出行動

10月20日 14:00 学内某所 代議員会

京都大学同学会 中央執行委員会

Mail : dougakukai.kyoto@gmail.com

Twitter : @DGK_re

Facebook : @dougakukai

処分を受けた本人の集会発言

私を含めた京大生3名が新たに無期停学処分となりました。大学職員の命令に従わなかったこと、職員に抗議したことが主な処分理由です。実際には、当局が立入禁止にし、不審者と決めつけた学生を十数人で羽交い締めにするのを止めたこと、立て看板の強制撤去に抗議したこと、職員に対する抗議が暴言とされたことが今回の無期停学処分の根拠とされました。

そもそも、学生を立入禁止にしたのも、不審者と決めつけたのも、タテカン規制を出したのも当局の方です。学生の意見を一切聞かず、もう決定したからと言ってすべてを学生に押し付ける。こんな状況の中で、職員に抗議しただけで無期停学処分です。この処分は私たち3人だけの問題ではありません。今後一切、学生は大学当局に逆らうなという宣言であり、その見せしめとしての私たち3人に対する無期停学処分です。

実際私の周りでは、大学のやっていることはおかしいけど処分が怖くて何もできないという学生が何人もいます。

私は、研究室の教授や工学部長から目立つこと・大学に歯向かうことはやめると圧力をかけられ、正門を通るだけで警備員に通報され、学内を移動するときは常に10メートル後を警備員がついてきます。警備員を雇うのに数千万円使われています。ここ数年で学生監視のための監視カメラ・警備員増員・職員の大量動員には億単位のお金が使われています。全部私たちの学費です。学問をするために必要だと言われて集められたお金で、学生の自由な活動を監視し威圧しているのです。私は、大学職員に囲まれ、勝手にビデオ撮影をされ、名前を執拗に呼ばれます。こうやってあらゆる手段を使って学生が声をあげるのを阻止しているのです。

山極総長は、ことあるごとに「京大は自由の学風だ、学生との対話を重視する」と言ってきました。しかし現実はどうか？ 学生の意見なんて何も聞かず、メディアではゴリラ研究の権威としてもてはやされ、裏では都合の悪い学生を処分・逮捕し、自由のかけらもない大学改革を推進しています。

京大の自由の学風は京大生自身の手で勝ち取ってきたものです。当局が自由を認めたことなんて今まで一度だってありません。

私たちが高校生の際にあこがれた京都大学は何だったのか？ スゴイ教授がいる、再審の研究設備、レベルの高い仲間・・・それだけじゃなかったはずですよ。

ビラで埋め尽くされた教室、個性的な立て看板、ぼろぼろの学生寮、よく分かんない学生・教授がうろつくキャンパス、コスプレで参加する卒業式・・・

何でもありの大学、どんな変人でも受け入れ対等に議論する雰囲気、一人ひとりが自分の道を情熱的に突き進む、キャンパスに言ったら誰かがなにかしている、何かが起こる、自分の知らない新しい発見がある・出会いがある。

これこそが、京大の自由の学風であり、ノーベル賞やその他偉大な発見を生み出す基盤になったのではないのでしょうか？

大学改革でこれまでの授業のあり方は一変し、出席しないと単位

が来ない、レポートに追われ興味のある研究ができない、学費を払うためにバイト漬け、お金の余裕がないとサークル活動もできない・・・

学内規制を乱発して立て看板は出せなくなり、NFの日程は短縮されそうになり、学生寮が次々と潰されていく、大学のやっていることをおかしいと思っても処分されるのを恐れて何もしない、何も言えない・・・

すべてを諦めて淡々と単位をとって就職しろ！ そう言われているようなものです。「自由の学風」というセールス文句に騙され、京大生は大学キャンパスと家を往復するだけの日々を繰り返すことになります。

これこそが、まさに大学改革を推進する京大役員会・文科省・全国大学の理事会の狙いです。

非常に興味深い発言を紹介します。21世紀の大学改革を議論する全国大学の総長・学長が参加する会議において、「学生は原材料だ。仕入れて加工し、卒業証書という保証書をつけて企業に送り出す。これが産学連携だ」と言ったのです。

ふざけていると思いませんか？ 彼らにとって学生は企業に売りつけるための労働力商品なのです。少しでもいい商品になるように、偉い人に逆らわない、上の決定事項には忠実に従え、決められた課題・レポートを期限までに仕上げろ、そうやって学生は自ら考え行動する力を奪われていくのです。会社で不当な扱いを受けても声を上げることすら許されない、声を上げるやつは不良品なのです。

起きていることはサラリーマンの仕事と同じです。そこには、学生の主体性・研究分野に対する情熱、社会をより良くするという正義感、そんなものは一銭の価値もないと切り捨てられてしまいます。

タテカン規制や吉田寮問題、NFの日程短縮、これらの問題がこの一年で一気にきた理由は、私たち京大性がなめられているからです。どんなに弾圧しても規制しても、京大生は声を上げないし行動しない。せいぜいツイッターでぐちを吐くだけだろう、当局はきっとそう思っています。間違いなくなめられています。

しかしNFの日程短縮に対するアンケートで5000人が回答し、そのうち97%が反対し、その後当局は日程短縮を撤回しています。僕らがみんな声を上げ行動すれば大学を変える力になる。今まさに、そこが問われています。

高校までのように、学校の先生の言うことを聞いていれば大丈夫。どんなに理不尽なことが行われていても山極総長が決めたことだから、おかしいと内心では思っても我慢して何も言わないのか。

おかしいことにはおかしいという、自分の信念・考えを率直に伝える、そのために全学的に反撃するのか。

問われているのは私たち一人ひとりの決断です。

それが問われているのが、今回の3名の処分です。このままでは、もう当局に逆らうことすら許されない京大にされてしまいます。

共に立ち上がり声を上げていきましょう。みなさんの思いを是非聞かせてください。